

20089

補助循環装置（PCPS）の24時間安全管理体制の構築について

¹東京慈恵会医科大学附属病院

渡邊 拓也¹、遠藤 友哉¹、児島 徹¹、佐々木 雄一¹、渡邊 尚¹、岩谷 理恵子¹、平塚 明倫¹

はじめに

当院臨床工学部では技士1名による宿直体制をとっている。宿直者には体外循環に従事していない技士も含まれる。平成24年度に病院長よりPCPSの24時間安全管理体制の構築の命を受け、部内でプロジェクトを立ち上げ、体外循環技術認定士の資格を有する技士を中心に取り組みを開始した。平成26年度のCCTにおいてトレーニングの内容と今後の課題について報告を行ったが、今回、その後2年が経過した現状について報告する。

取り組みの内容

独力でPCPS導入が可能な技士を免許者、規定のトレーニング(STEP1 準備から導入、STEP2 搬送とトラブル対応、筆記と実技試験)を終了した技士を準免許者とし、宿直対応を行う技士全員が準免許を取得することを目標にトレーニングを実施した。準免許者は準免許取得後PCPSに関わる機会が少ないため、平成27年度より更新制度を設け、準免許取得後1年以内に再度トレーニングを実施することとした。

結果

トレーニングによる準免許取得者は13名である。準免許者の内2名が宿直帯に独力でPCPSの導入を行った。

考察と今後の課題

補助循環装置の24時間安全管理体制の構築のゴールは宿直対応者全員が免許を取得することである。しかし、各業務の専門性も重要となる大学病院においては実現が難しい。その中でもトレーニングシステムを構築し、準免許取得者が独力でPCPSの導入ができたのは大きな成果である。今後は機器の更新に向けたトレーニングシステムの構築が課題である。

結語

当院臨床工学部が考案したトレーニングシステムはPCPSの24時間安全管理体制の構築に有用であった。